



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進



第51回若鮎祭の行方

いよいよ若鮎祭文化の部が、今週土曜日(9月13日)に迫ってきました。今年度の若鮎祭は、体育の部と文化の部の実施時期を分けた「分散」開催です。生徒たちは、先生方の指導・支援を受けながら、自分たちの“力”で企画・運営を担当して取り組んでいます。学年の仲間、先輩や後輩、全校生徒の絆を深めて、みんなで協力することの大切さや喜びを学んでいます。

当然、最初からうまくいくことばかりではありません。仲間と意見が合わず、ぶつかり合ったりすることもあります。悔しい思いをすることもあるかもしれません。自分がイメージしていたものとは違い、心の中で葛藤が生じることもあるでしょう。ただ、それらすべてが学びであり、成長への糧となるはずです。

この間、全校生徒の前で話をしたり指示を出したりすることも増えます。これは、なかなか大変なことです。



生徒の前で、何度も話をしてきたこの私でさえ、いざ話をするとすると、何を話すべきか、どのように話したらよいか、話したことが心に届くものになっているか等々、そんなことを思い描きながら話します。きっと生徒の皆さんも同じようなことを考えているのではないのでしょうか。

私たち教職員の指導・支援のポイントの1つとして、生徒が自分自身に対して、学習課題を、常に前向きな気持ちで受け止め、仲間の成功を喜び、共感する心を育てることがあります。これは、新たな課題に対して、自分自身の能力や可能性を信じて、積極的に取り組むことにつながると考えます。

文部科学省が発行する、『生徒指導提要(改訂版)』には、“生徒指導の実践上の視点”として、次のような文言があります。

…学校生活のあらゆる場面で「自分も一人の人間と

して大切にされている」という**自己存在感**を、生徒が実感することが大切であり、ありのままの自分を肯定的に捉える**自己肯定感**や、他者のために役立った、認められたという**自己有用感**を育むことも極めて重要としています。…



まさに、学園祭等の生徒会活動の取組を通して、これらの「**社会性の基礎**」を形づくっているのです。

さて、今回の第51回若鮎祭文化の部は、どのようなものになるでしょうか。是非、多くの方々に観覧していただき、生徒たちに温かい声援と拍手をしていただけたら幸いです。

雑感(わたしの独り言)

日めくりカレンダー

校長室の卓上に「日めくりカレンダー」を置いた。“1日1日を大事に”という願いを込めて、昨年12月、無印良品で購入した。毎年、様々なタイプのカレンダーが発売されるが、これを選んだ。最初の3週間は、出勤と同時にめくっていたのだが…。最近では、一日も半ばを過ぎた頃(給食の後ぐらい)、“そういえば、今日はまだカレンダーの更新をしていない”と気づき、慌てて更新。こんな日が増えてきた。さらには、何日分かまとめてペリッとちぎる日もでてきた。これはまずい…。



2学期が始まり9月に突入。“初心を忘れるな、思い出せ!”。毎日コツコツと更新しよう!そして、気持ち良く1日をスタートさせよう!

ところで、職員室にも「日めくりカレンダー」がある。こちらは、毎日必ず更新されている。“誰”がめくっているのだ。日々、感心させられ、気持ちも良い。

職場(集団)では「自分がやらなくても誰かがやってくれるだろう」という心理もはたらく。だが、この“誰”かは、自分のルーティーンとしているのだろう。私も、こっそり、その極意を教えてもらおう……。